

Co-agency～こどもと保育者が共に創る保育環境とは～

まとめ

子どもの主体保育とは、自由保育？わがままを聞く？のではなく子どもたちの「あれ何？」「やりたい」をしっかりと拾ってあげて子どもたちのことを信じて見守ること。例えば0歳児であろうと「鼻を拭く？」「自分で拭く？」など動作一つ一つに本人の意思を確認し、応答的な関わりをすることが大事である。子どもたちが選択できる環境づくりが大切である。そういった子ども主体の保育をする中で、子どもと大人が対等な関係である事が重要な鍵である。大人の良さと子どもの良さを出し合い共に創る保育が今回のテーマでもある共主体である。子どもだけがワクワク楽しいという気持ちではなく保育者も子どもと同じ気持ちで楽しんでいることがとても大事である。また、共主体は子どもの思いと保育者の思いだけでなく、大人同士の関係の中での思いをどうしていくかも大事である。

感想

今まで子ども主体という言葉がたくさん聞いてきたが、本当に主体とは何なのか、子ども主体というのは具体的にどういった保育なのかがあまりわかっていなかったなと今回の研修ですごく感じました。その中で普段の保育の中でけんかはたくさんおきるがそのけんかこそが子どもの成長に繋がるので子どものことを信じて保育者は見守ることが大事であると学んだ。どうしても大人が仲介してしまうが、子どもたちの中では解決していないことも多いため、できるだけギリギリまで大人は仲介せずにけんかは見守るとのことで、子どものために子どものことを信じて見守る大事さを学びました。

また、今回の講義で一斉保育はしない、子どもの生活に待つことを最小限にするという保育をしていることを聞き、どういった保育をしているのかすごく疑問に思いその疑問を午後のワールドカフェの時間に聞く事ができました。子どもが「これやりたい」といったことはできるだけその時に叶えてあげること、そのやりたいが自然と子どもから子どもへ伝わるときもあるが、やりたくない子は、それはその子のやりたくないという気持ちなので無理に参加しなくていいと聞き、私自身の保育を振り返り子どもたちの気持ちを受け止めていたつもりだったが、本当の気持ちは受け止めれていなかったなと感じました。そういった保育をするに最初は、何からやったらいいのか、わからないことばかりだったがとにかくやってみようという気持ちで始め、十年経ってやっと共主体と言うのはこう言うことだとわかってきたと聞き、時間をかけて私自身の保育を見直していきたいと思いました。

そして、保育者同士の関係の中での思いをどうしていくかも大事であると感じました。講義の中で「素晴らしい案だけでなく、しょうもないような案を自ら出すとともに、他の人のそういう案も肯定的に評価し、笑い合って面白い」と言う言葉を聞き、普段こどもたちに「失敗しても大丈夫だよ」と伝えているのと同じように、自分自身も失敗しても大丈夫だから「やってみたい」と言うことをどんどん実践していきたいと強く思いました。

今回の研修で今後子どもたちが困らないようにやってあげないと、という保育をしていたなと感じ、今後子どもたちを考えることももちろん大切であるが今の子どもたちともっとしっかり向き合い、関わっていききたいと感じ、たくさん学ぶことができました。

平和の子保育園 職員

「少しずつ、少しでも働き方改革」

働き方改革というにはささやかなものかもしれませんが、2024 年度より職員の業務をサポートするシステム、ICT 化の導入に取り組んできました。実際には2023 年秋より職員が様々な操作をくり返し学び始め、少しずつ理解を深めていきました。

その後は保護者による登降園時のタッチパネル使用をスタートさせたり、一斉メールのテストを繰り返したり、準備期間を経て正式に導入。園児台帳・指導計画・登降園時間の管理・職員の出退勤管理・保護者と園との連絡…。一年間で新しい総合保育管理システムが定着しました。

保育者の事務処理の業務が円滑になり、また保護者も都合の良いタイミングでの出欠や遅刻等の連絡が可能になりました。おたより類も基本的にはメール送信になりペーパーレス化が進みました。2025 年の現在、すっかり定着しています。昭和が懐かしい私も各テーブルにタブレット画面が並ぶ職員会に慣れました。そして何よりスマートフォンが生活必需品だと改めて実感させられます。ポケベル～携帯電話～スマートフォンへと進化。そして未来にはどんな便利なものが生まれるのでしょうか？

平和の子保育園 1 階に法人室があります。理事長が事務作業を行ったり、応接室と使用してきました。が、2024 年度に職員の休憩室を確保するために冷蔵庫を設置したり、室内を模様替えしたのです。「この法人室、職員の休憩室になりましてん…。」と来客に笑いながら説明してくださる松野理事長。午睡時に代わるがわる休憩室に入り、一息入れる職員のおしゃべりが日常になりました。ノンコンタクトタイムの確保もささやかな改革です。

2025 年 4 月、大阪市の待機児童ゼロ！のニュースがあったことは記憶に新しいです。待機児童のピークは2017 年、全国で26,081 人。現在では10 分の1 以下の事。また、少子化の進行は止まらず、2025 年を迎えた時点の出生数は72 万1000 人（推定）。合計特殊出生率は1.20。一時的な現象ではなく今後も進行していくものと思われます。

平和の子保育園は現在0 歳児を分園で保育していますが、次年度に本園で統合しての保育再開を計画しています。利用人数に応じた必要な保育スペースに満たなくても柔軟に待機児童を受け入れてきた面積基準緩和制度も廃止が決まりました。平和の子保育園もここ数年間で各クラスの定員を少しずつ減らしてきましたが、実際の保育スペースに合った定員でのゆったりとした保育を目指しています。

7 月には長年使用してきた1 階の家具（保育室の区分けになっています）を全てリニューアル。幅を狭くして保育スペースを少しでも広げる工夫をしました。現在は遊戯室として利用しているスペースがありますが、0 歳児保育室として想定しています。本来のゆったりとした保育への舵切りもささやかな、そして大切な働き方改革。これからも少しずつ、みんなで働き方改革を進めていきたいと思います。

平和の子保育園園長 谷川勝敏